

そして父になる⑤

指しゃぶりする娘

島本 政志

娘が生まれてから、もうすぐ3か月になる。すぐに時間が経ってしまった。

生まれた時は体重が3200gほどだったのが、今では5000gを越えている。

抱っこしていると「だんだん重くなってきたなあ」というのが正直なところである。

1. 声らしきもの

「うー」「えーい」といった声をだすようになってきた。声は出せなくても、何か聞いたそうだなあ、と口をパクパクさせている時もある。

赤ちゃんの喉は、大人の喉と同じような構造をしていない。母乳やミルクは口から、呼吸は鼻からしている。つまり口や喉は栄養摂取のためにあるのであって、音声を作り出す役割は後回しにされているのだ。

我が家の子は、あまり、「オギャー、オギャー」と泣き続けない。私や妻を呼ぶとき

だけ、「んぎゃー」と軽く泣くのである。そして、抱っこしてあやしてやると、機嫌よさそうにしたり、眠ったりする。

私も妻も、赤ちゃんのころは、ずーと泣きっぱなしの子だったらしい。そんな二人の子なので、遺伝して「泣きまくるのじゃないか」と思っていたが、親が遠くに行ってしまったときだけ「んぎゃー」と1回泣くだけである。実感としては、泣くと言うより「呼ぶ」に近い。

おお、この子は呼び声として泣き声を出しているのだ、と思った、
大人が離れていることを感じ、声を発して、さらに表情や身振り手振りで要求を知らせる。

わが子というのではなく、赤ちゃんというのは、想像以上にかしい生き物だと思った。

(予防接種の時に、3本の注射をされたときは、明らかに今までとは違った本気の泣き声だったが)

2. 言葉の獲得

小学生であれば、国語、そのほかの授業や友だち、教師とのやり取りで言葉を増やしていく。また「辞書にふせん」の実践で語彙数を飛躍的に増やしていくという方法もある。

赤ちゃんはどのように言葉を獲得するのだろうか。

まず、周りの人の口元を見る。そして自分も同じように動かし、出てきた音声と母親の音声を比較しながら、真似をしながら修正を繰り返して学習していく。

単に語彙としてその言葉を覚えたというだけでは意味がない。一体何を意味しているのかが分からないからである。このことに関しては私たちも同じだろう。

では、何の役にも立たないのではなく、役立つようにするには、つまり使えるようにするにはどうすればよいのか。

それにはまず「体験(物の操作)」が必要である。

先日、妻の実家に行った。ちょうど、義理の妹とその子どもが家に遊びにきていた。そこに私がふらっと寄りつたわけである。

甥っ子は私に言った。

「じーじー」

初対面だったので、一体何のことかな？車の「ぶーぶー」が言えなくて、「じーじー」

と言っているのだろうかと思っていたが、その直後に、義理の父(単身赴任中)も帰省していたことを知った。

女の人でない、またお父さんでもない男の人ということで私も「じーじー(じいちゃん)」と呼ばれ(カテゴリー化された?)のである。あるいは、変だぞと思いつながら、そういった呼び方しかしようが無かったのかもしれない。

その後、義妹(甥っ子の母親)が「じいじ、じゃないよ、『にいに』だよ」と教えた。

甥っ子と、積み木のブロックと車のおもちゃで遊んだあと、帰ろうとすると「にーにー」と呼ばれながら手をつながれた。甥っ子は「にいに」と言う言葉と、じいじよ

りは若く、かつ、父親でもない男の人、というカテゴリー化ができるようになったのである。

もちろん、いつまでは私は「にいに」ではなく、自分とは特別な親族関係をもつ「おじさん」にならないといけないし、なっていくだろう。カテゴリー化のためには多数のものや出来事から、見た目の類似性や共通性を見つけ出す認知能力が必要となる。

ああ、こうやって実感を伴いながら言葉を覚えていくのかと感心した。

3. 指しゃぶり

母乳と、粉ミルクで育てている。10か月を過ぎたところから、指をチュパチュパと吸う様になった。時々、拳全体を口に半分咥えている。

「あらー、これ、(量が)足らんのんちやうの？」

「えー？さつき、あげたばかりだよ」

私がミルクをあげようとすると、口に入れようとせず、ちよつと押し込んでみても、舌で押し返してくる。「んー、ミルクじゃないのに、なんで指を舐めるんだ？」と悩ん

だ。困ったので助産師さんに聞いてみた。するとこれは「良い」指しゃぶりだそうだ。大人であれば「私は私」「おれはおれ」というような自己認知ができる。そのうえで、「私とは一体、何者か？どのよう存在なのか？」といった問いが成り立つ。

赤ちゃんはそれ以前の問題として、自分がどんな体をもっているのか、どれが自分なのかを認知することから始めないといけない。舐めることで、自分の体を知っているのである。娘の世話は、ちよつとしんどいなあと思うこともあるが、人間の発達について、その学習の仕組みについて学ぶことも多い。



笑う回数が増えてきました。